男女共同参画 4

子育てに、仕事に、参加しよう

男性も女性もそれぞれ、家庭もそれぞれ

加藤さん一家は、大介さんと奈穂さん、長男の大琉くん、二男の魁清くんの４人家族。パパとママが２人の子どもためにお互いの役割を考えながら、厳しくも楽しく子育てをしています。
そんな加藤さん一家の生活から男女共同参画を見てみましょう。

加藤大介さん

加藤奈穂さん

大介さんと奈穂さんは、平成15年5月に大阪府で結婚。その2年後には、大介さんの転職のために、熊本県に引っ越してきました。大津町に居を構えたのは、4年前になります。

子どもたちのために

結婚して6年後、大琉くんが生まれます。大介さんも奈穂さんも待ち望んでいた子どもです。子育てにも力が入ります。しかし、大阪から熊本に来た2人には、近くに親戚がいません。子育てを手伝ってくれる身近な人がいないという心配は、逆に2人の子育てに対する関心が高まることにつながりました。

出産前からいろんな子育ての本を読みました。2人で子育ての講演会に参加したこともあります。2人にとって、大琉くんと魁清くんは、何よりも大事な存在なのです。

奈穂さんの場合

奈穂さんは、高校を卒業して就職。今まで事務や販売など、いろんな仕事をしてきました。結婚してからも仕事をしていましたが、今は子どもたちのために力を注ぎたいと話します。

「仕事を始めると一生懸命になり過ぎちゃうんですよ」。仕事をすることで子育てをおろそかにしたくない思いが奈穂さんから伝わります。子どもが成長していくこの瞬間を大切にしていくことも家族の選択の一つ。男女共同参画社会は、自分たちの選択したことを実現することができる社会です。

大介さんの場合

大介さんが家に帰ってくる時間は、遅いときは午後10時頃になります。「8時頃には帰ってきたいんですけどね…」と仕事と家庭の両立に悩みます。

残業のない水曜日は、町の総合体育館でトレーニングをして帰ります。家族のためにも、自分の健康は大切ですから、そのための努力も欠かせません。

子どもたちを寝かせるのは、奈穂さんの仕事。自分の帰りが遅く、やりたくてもできないので、どうしても任せきりになってしまいます。だから仕事が遅くなっても、使った食器は自分で洗って片付けます。無理をしないで、お互いができることを続けることが大切なのです。

みーんな一緒

大介さんと奈穂さんは、「2人で話すこと」を大切にしています。子どもたちが寝たあとに、毎日一時間程度会話をします。「ほとんどが子どもの話ですけど、仕事の話もします」と大介さん。「何か買い物をするときも聞くんですよ。聞いてないふりをすることもありますが、夫は心が広いですから」と奈穂さんは笑います。仕事や子育てで疲れた2人は、2人だけの会話で1日を終わります。

休日は、家族一緒です。掃除をしたり、買い物に行ったり…なるべく家族4人が一緒にいられるようにしています。子どもが積み木やパズルで遊ぶときも常にそばにいます。それは、父親と母親の役割のバランスが良いからできること。家族の絆はより深まります。

大介さんも奈穂さんも、根底には「子どものために」という思いがあります。目的のためにそれぞれができることをやることが、結果的に男女共同参画に取り組んでいることになっているのでしょう。

会える時間が限られているからこそ、子どもに愛情を注ぐ時間を濃く。仕事はやりがいを持って、続けたい。

㈱三ツ星　熊本営業所
麻生真野（あそうまや）さん（室）

大学卒業後は企業に就職し、受付業務を担当していました。その会社は勤務時間が長く、午前７時頃に会社に行き、午後９～10時頃に帰るという生活が続いていました。夫よりも先に家を出て遅く帰ってくることに抵抗があったことや、「女性は結婚したら退職」という風潮が会社の中にあったことなどから、結婚を機に今の会社に転職しました。今の職場は男も女も正規もパートも関係なくさまざまな仕事を任せてもらえるので、とてもやりがいがあります。

働いているので、常に娘と一緒にいられるわけではありませんが、私は一緒にいる時間が短いからこそ、家にいる時間だけは、子どもに思い切り愛情を注いで育てたいと思いました。自分にはそのやり方が合っていましたね。夫も子育てに協力的で、休みの日に食事を作ってくれることもありますし、仕事から帰ると子どもの相手をしてくれるので、私はその間に家事などをすることができてとても助かっています。今はパートとして働いていますが、子育てが一段落したら、正規の社員として、今よりももっと仕事を頑張りたいと思っています。